

平成27年度 第1回栃木県企業局経営評価委員会

平成26年度  
経営計画進捗状況説明資料  
(経営計画達成状況、経営計画進行管理・評価シート)

栃木県企業局

# 目 次

	ページ
【電気事業】	
○平成26年度経営計画達成状況 -----	1
○平成26年度栃木県企業局経営計画進行管理・評価シート -----	3
【水道事業】	
○平成26年度経営計画達成状況（北那須） -----	5
○平成26年度経営計画達成状況（鬼怒） -----	7
○平成26年度経営計画達成状況（北那須＋鬼怒） -----	9
○平成26年度栃木県企業局経営計画進行管理・評価シート -----	11
【工業用水道事業】	
○平成26年度経営計画達成状況 -----	13
○平成26年度栃木県企業局経営計画進行管理・評価シート -----	15
【用地造成事業】	
○平成26年度経営計画達成状況 -----	17
○平成26年度栃木県企業局経営計画進行管理・評価シート -----	19
【施設管理事業】	
○平成26年度経営計画達成状況（ゴルフ場） -----	21
○平成26年度栃木県企業局経営計画進行管理・評価シート（ゴルフ場） -----	23
○平成26年度経営計画達成状況（賃貸ビル） -----	25
○平成26年度栃木県企業局経営計画進行管理・評価シート（賃貸ビル） -----	27

平成26年度経営計画達成状況（電気事業）

項目名	単位	H25	H26				評価 (※3)	備考	
		決算値	目標値 (※1) (a)	予算値 (※2)	実績値 (決算値) (b)	進捗率 (達成率) (b/a*100)			
サービス供給の分野									
供給電力量	(MW h)	220,927	244,932	255,075	280,569	115%	A		
地球環境の分野									
CO <sub>2</sub> 排出抑制量	(トン)	100,080	127,120	132,384	145,615	115%	A	※4	
栃木県森林面積との比較	(%)	9.1	7.3	7.7	8.4	115%	A	※5	
経済性発揮の分野									
収益的 收支	収益	(百万円)	1,924	1,847	2,041	1,997	108%	A	
	料金収入	(百万円)	1,891	1,805	1,881	1,945	108%		年間降雨量増等
	その他収入	(百万円)	33	42	160	52	124%		共有設備分担額等
	費用	(百万円)	1,754	1,748	1,955	1,759	101%	B	
	人件費	(百万円)	399	404	430	398	99%		
	減価償却費	(百万円)	447	463	476	477	103%		
	修繕費	(百万円)	217	173	198	184	106%		
	支払利息	(百万円)	126	94	94	93	99%		
	その他支出	(百万円)	565	614	757	607	99%		委託費、負担金等
	経常損益	(百万円)	170	99	86	238	240%	A	
資本的 收支	収入	(百万円)	39	34	34	34	100%	A	
	他会計補助金	(百万円)	0	0	0	0	-		
	その他収入	(百万円)	39	34	34	34	100%		長期貸付金償還金等
	支出	(百万円)	900	710	876	777	109%		
	建設改良費	(百万円)	328	212	370	275	130%		
	企業債償還金	(百万円)	563	468	469	468	100%		
	その他支出	(百万円)	9	30	37	34	113%		繰出金等
差引	(百万円)	▲ 861	▲ 676	▲ 842	▲ 743	-			
借入金残高	企業債	(百万円)	2,107	1,639	1,639	1,639	100%	A	
	他会計	(百万円)	0	0	0	0	-		
	合計	(百万円)	2,107	1,639	1,639	1,639	100%		



※1 目標値：平成22年度に策定した「経営計画(平成23～27年度)」の平成26年度目標額

※2 予算値：平成26年度予算額

※3 評価：達成率(実績値÷目標値×100)をもとに、次のように区分する。

評価		給水量、収益など、目標を上回ったほうが良い項目	費用、借入金残高など、目標を下回ったほうが良い項目
A	計画を上回る	100% ≤ k	k ≤ 100%
B	概ね計画どおり	90% ≤ k < 100%	100% < k ≤ 105%
C	計画を下回る	k < 90%	105% < k

資本的収支は、その収入・支出の効果が次年度以降に及び、将来の損益に反映されるものであるため、単年度の評価にはなじまないことから、評価項目から除外する。

※4 CO2排出抑制量[トン] = (東電排出係数 0.530 [kg/kWh] - 水力排出係数0.011 [kg/kWh]) × 供給電力量 [kWh] ÷ 1,000

※5 CO2排出抑制量森林面積換算 [ha] = CO2排出抑制量 [トン] ÷ 森林の単位面積当たりCO2吸収量 4.95 [トン-CO2/ha年]

栃木県森林面積との比較[%] = CO2排出抑制量森林面積換算 [ha] ÷ 栃木県森林面積 349,600 [ha] × 100

### 【経営比率（収益性）及び財務比率（安全性）】

項目名	単位	H25	H26	(参考) H25年度 全国平均	備考
		実績値	実績値		
収益性	①経営資本営業利益率	(%)	1.8	2.0	2.3
	②営業収支比率	(%)	118.2	118.5	121.8
	③経常収支比率	(%)	109.7	113.5	119.7
安全性	④自己資本構成比率	(%)	79.7	77.0	79.1
	⑤流動比率	(%)	1,454.8	478.7	992.4

(注) 「(参考) H25年度全国平均」の欄に表示している数値は、総務省自治財政局編の「地方公営企業年鑑(第61集：平成25年度版)」を参照

① 経営に充てた資本により、どれだけ営業利益をあげたかを表し、高いほど収益性が高い。

$$\text{経営資本営業利益率} = \frac{\text{営業収益} - \text{営業費用}}{\text{経営資本}} \times 100$$

② 経営活動の成否を判断する営業活動の能率を表し、高いほど収益性が良い。

$$\text{営業収支比率} = \frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100$$

③ 経常的に行われる営業活動と財務活動を含めた企業活動の効率性を表し、高いほど良い。

$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{営業収益} + \text{営業外収益}}{\text{営業費用} + \text{営業外費用}} \times 100$$

④ 総資本に対する自己資本の割合であり、この割合が高いほど財政基盤は安定している。

$$\text{自己資本構成比率} = \frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} \times 100$$

⑤ 短期的(1年以内)な支払能力を表しており、高いほど財政基盤は安定している。

$$\text{流動比率} = \frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$

平成26年度栃木県企業局経営計画進行管理・評価シート（電気事業）

1. 計画

実施計画	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	合計
供給電力量 (MW h) 目標	259, 217	247, 630	258, 190	244, 932	246, 770	1, 256, 739
供給電力量 (MW h) 実績 進捗率 (%)	242, 488	229, 752	220, 927	280, 569	-	973, 736 77%
(1) 経営基盤の強化	今市発電管理事務所集中監視制御装置更新工事 板室発電所改修工事		川治第二発電所改修工事 足尾発電所改修工事	川治第一発電所改修工事		
①計画的な設備の修繕・更新	今市発電管理事務所集中監視制御装置更新工事 板室発電所主要機器内部点検修繕等工事		川治第二発電所改修工事 足尾発電所改修工事	川治第二発電所主要機器内部点検修繕等工事	木の俣発電所主要機器内部点検修繕等工事	
(2) 災害事故対策の強化	板室耐震補強工事 実施設計		板室発電所耐震補強工事 小網ダム管理所建替工事	川治第一発電所耐震補強工事 佐貫ダム管理所居住区域撤去工事	川治第二発電所耐震補強工事	
①計画的な施設の耐震化	板室耐震補強工事 実施設計		板室発電所耐震補強工事 小網ダム管理所建替工事	川治第一発電所耐震補強工事 佐貫ダム管理所居住区域撤去工事	川治第二発電所耐震補強工事	
②防災訓練の実施						
③防災対策の検証	防災対策要領等の改正					
(3) 人材の育成・技術の継承						
①内部研修の実施・外部研修への派遣等						
(4) 環境分野等への地域貢献を推進						
①クリーンな電力供給による環境貢献						
②電気事業資金を活用した地域貢献	・EV・PHV率先導入事業 →電気自動車導入 →電気充電スタンド設置 等	・EV・PHV率先導入事業 →PHV車導入 →電気充電スタンド設置 →レイル&EV観光モデル 推進事業 等	・EV・PHV率先導入事業 →PHV車導入 →電気充電スタンド設置 →レイル&EV観光モデル 推進事業 等	・EV・PHV率先導入事業 →PHV車導入 →電気充電スタンド設置 ・子ども科学館展示品更新 ・県立博物館顕微鏡購入 ・県立美術館展示用免震台整備	・EV・PHV率先導入事業 →PHV車導入 →電気充電スタンド設置 ・総合文化センターのF'ロジック更新 ・県立博物館3Dスキャナ購入 ・県立美術館展示用免震台整備	
③普及啓発事業・ボランティア活動に協力	植樹活動の支援	植樹活動の支援	植樹活動の支援	植樹活動の支援	植樹活動の支援	
(5) 中小水力発電の推進	候補地の河川流量観測 (職員による観測)	有望地点の河川流量観測 (業務委託による調査)	・小百川地点 →流量調査 →環境調査 ・五十里地点 →基本設計	・五十里地点 →実施設計 ・大下沢地点 →実施設計, 用地測量等 ・事業化可能性調査	・五十里地点 →建設工事 ・大下沢地点 →建設工事 ・小百川地点 →実施設計	
(6) 電気事業の今後のあり方を検討						
内部評価	B	B	B			
外部評価	B	B	B			

計画 : -----> 実績 : ----->

経営方針	内 容
経営基盤の強化	電力の安定供給を図るため、一層の経費節減に努め、計画的に発電設備の改修等を実施するなど経営基盤の強化に努めます。
地域貢献事業の推進	電気事業資金を活用した環境分野等での地域貢献を推進していきます。
中小水力発電の推進	中小水力発電の開発可能性地点の調査・検討を進め、再生可能エネルギーの開発を推進します。
経営環境の変化への対応	電力自由化の進展等、経営環境の変化に耐えられる経営体制を確立するとともに、今後のあり方について検討を進めます。



2. 平成26年度の取組状況及び平成27年度の主な予定

項目	平成26年度 取組状況	平成27年度の主な予定
(1) 経営基盤の強化	① 設備改修計画に基づく、設備の改修・更新を実施 ・ 川治第二発電所主要機器内部点検修繕等工事 (272,905千円) ・ 小網発電所主要機器内部点検修繕等工事 (32,346千円) ・ 監視カメラ設置工事(ダム・取水堰) (17,064千円)	① 設備改修計画に基づく、設備の改修・更新を実施 ・ 木の俣発電所主要機器内部点検修繕等工事 ・ 板室発電所発電機遮断器交換工事
(2) 災害対策の強化	① 計画的な施設の耐震化 ・ 川治第一発電所本館耐震補強工事 (52,531千円) ・ 佐貫ダム耐震化(居住区撤去) (6,502千円) ・ 川治第二発電所本館耐震補強実施設計業務委託 (3,866千円)  ② 防災訓練の実施 ・ 小網ダム、庚申ダムを対象にした洪水対応演習 (5/19実施) ・ 板室管理支所を対象にした事故故障発生時の対応訓練 (7/4, 12/8実施) ・ 今市発電管理事務所を対象にした事故故障時の対応訓練 (12/10実施) ・ 鬼怒川水系ダム放流危険箇所合同巡視(国等) (7/14実施) ・ 板室発電所油流出対応訓練 (12/11実施) ・ 川治第二発電所油流出対応訓練 (H27 2/5実施)  ③ 防災対策の検証 ・ 防災訓練等の結果を踏まえた防災対策の検証 ※訓練にあわせ実施	① 計画的な施設の耐震化 ・ 川治第二発電所本館耐震補強工事  ② 防災訓練の実施 ・ ダムを対象とした洪水対応演習(5/29実施) ・ 事故故障発生時の対応訓練(今市8/6実施, 板室未定) ・ ダム放流危険箇所合同巡視(7/8実施) ・ 発電所での油流出対応訓練  ③ 防災対策の検証 ・ 防災訓練等の結果を踏まえた防災対策の検証 ※訓練にあわせ実施
(3) 人材の育成・技術の継承	① 内部研修の実施・外部研修への派遣等 ア 内部研修の実施 電気技術に関する研修会・研究会を実施 イ 外部研修への派遣 ・ 新エネルギー財団主催の中小水力発電に関する実務研修 ・ 公営電気事業経営者会議主催の各研修会 ・ その他資格取得研修などへ職員派遣 ウ OJTを活用した保守管理ノウハウの伝承 ※点検・停止作業時にその都度実施	① 内部研修の実施・外部研修への派遣等 ア 内部研修の実施 イ 外部研修への派遣 ウ OJTを活用した保守管理ノウハウの伝承
(4) 環境分野等への地域貢献を推進	① クリーンな電力供給による環境貢献 CO2排出抑制量 145,615トン ② 環境保全・文化振興事業への支援 (33,558千円) ・ 電気自動車の県公用車への率先導入の支援(車両のリース) ・ 県立こども科学館の展示品更新 ・ 県立美術館の展示用防震台の設置 ・ 県立博物館の電子顕微鏡の購入 ・ 矢板南産業団地内のメガソーラー見学者用駐車場の整備 ③ NPO法人が行う日光市足尾地域における植樹活動の支援 ・ 苗木の寄付 1,600本 ・ 植樹デーへの職員の参加 23名 (4/26実施)	① クリーンな電力供給による環境貢献 ② 環境保全・文化振興事業への支援 ・ 電気自動車の県公用車への率先導入の支援 ・ 県立総合文化センターの舞台用プロジェクターの購入 ・ 県立美術館の情報発信機器の整備 ・ 県立博物館の3Dスキャナーの購入 ③ 日光市足尾地域における植樹活動の支援
(5) 中小水力発電の推進	① 五十里発電計画の実施設計(業務委託) →五十里ダム管理者の国土交通省と協議しながら実施 ② 大下沢発電計画の実施設計(業務委託) →取水設備管理者の地元自治体と協議しながら実施 ③ 事業化可能性の調査(業務委託) →新たな地点における事業化の可能性を調査 ④ 関係機関・自治体等との協議・調整 →自治体及び地元関係者への説明等を実施	① 五十里発電所(仮称)主要機器製作据付工事 ② 大下沢発電所(仮称)主要機器製作据付工事 ③ 小百川発電計画の実施設計 ④ 関係機関・自治体等との協議・調整
(6) 電気事業の今後のあり方を検討	① 電力システム改革への対応等 ② 局内に設置した再生可能エネルギー等可能性調査研究会等を活用し、再生可能エネルギーの新規開発の可能性について調査研究を実施	① 電力システム改革への対応等

【評価】

内部評価(担当課・経営企画会議)	外部評価(経営評価委員会)
<p>降水量の増等に伴う供給電力量の増により営業収益は増加した。会計基準の見直しにより減価償却費が増加したが、引き続き経常利益が確保され経営は安定している。 また、設備の改修・耐震化や、環境分野等への地域貢献、中小水力発電の推進のための取組などを計画どおり実施した。</p>	<p>供給電力量の増により料金収入や経常利益が目標を上回った。 また、設備改修や環境分野などへの地域貢献、新規水力発電開発のための取組など、計画どおり実施されている。 なお、電力システム改革へは、適切に対応されたい。</p>

【評価】 A: 計画を上回る B: 概ね計画どおり C: 計画を下回る

平成26年度経営計画達成状況（水道事業・北那須）

項目名	単位	H25	H26				備考		
		決算値	目標値 (※1) (a)	予算値 (※2)	実績値 (決算値) (b)	進捗率 (達成率) (b/a*100)		評価 (※3)	
サービス供給の分野									
安定供給	給水量	(千m <sup>3</sup> )	11,282	11,151	11,297	11,356	102%	A	
経済性発揮の分野									
収 益 的 収 支	収 益	(百万円)	926	919	929	969	105%	A	
	料金収入	(百万円)	922	911	900	904	99%		
	その他収入	(百万円)	4	8	29	65	813%		東電からの損害賠償金等
	費 用	(百万円)	730	784	882	772	98%	A	
	人件費	(百万円)	123	142	148	133	94%		
	減価償却費	(百万円)	213	283	261	247	87%		
	修繕費	(百万円)	95	94	96	96	102%		
	支払利息	(百万円)	30	30	27	26	87%		
	その他支出	(百万円)	269	235	350	270	115%		委託費、負担金等
経常損益	(百万円)	196	135	47	197	146%	A		
資 本 的 収 支	収 入	(百万円)	82	0	0	0	0%	A	
	企業債	(百万円)	82	0	0	0	0%		
	その他収入	(百万円)	0	0	0	0	0%		
	支 出	(百万円)	493	135	278	236	175%		
	建設改良費	(百万円)	335	58	196	158	272%		
	企業債償還金	(百万円)	158	77	78	78	101%		
	その他支出	(百万円)	0	0	4	0	0%		
差 引	(百万円)	▲ 411	▲ 135	▲ 278	▲ 236	-			
借 入 金 残 高	企 業 債	(百万円)	975	900	897	897	100%	A	
	他 会 計	(百万円)	0	0	0	0	-		
	合 計	(百万円)	975	900	897	897	100%		



※1 目標値：平成22年度に策定した「経営計画(平成23～27年度)」の平成26年度目標額

※2 予算値：平成26年度予算額

※3 評価：達成率(実績値÷目標値×100)をもとに、次のように区分する。

評価		給水量、収益など、目標を上回ったほうが良い項目	費用、借入金残高など、目標を下回ったほうが良い項目
A	計画を上回る	$100\% \leq k$	$k \leq 100\%$
B	概ね計画どおり	$90\% \leq k < 100\%$	$100\% < k \leq 105\%$
C	計画を下回る	$k < 90\%$	$105\% < k$

資本的収支は、その収入・支出の効果が次年度以降に及び、将来の損益に反映されるものであるため、単年度の評価にはなじまないことから、評価項目から除外する。

### 【経営比率（収益性）及び財務比率（安全性）】（北那須）

項目名	単位	H25	H26	(参考) H25年度 全国平均	備考
		実績値	実績値		
収益性	①経営資本営業利益率	(%)	-	2.2	1.3
	②営業収支比率	(%)	-	121.4	114.0
	③経常収支比率	(%)	-	125.5	109.4
安全性	④自己資本構成比率	(%)	-	74.0	70.0
	⑤流動比率	(%)	-	2,433.9	519.2

(注) 「(参考) H25年度全国平均」の欄に表示している数値は、総務省自治財政局編の「地方公営企業年鑑(第61集：平成25年度版)」を参照

① 経営に充てた資本により、どれだけ営業利益をあげたかを表し、高いほど収益性が高い。

$$\text{経営資本営業利益率} = \frac{\text{営業収益} - \text{営業費用}}{\text{経営資本}} \times 100$$

② 経営活動の成否を判断する営業活動の能率を表し、高いほど収益性が良い。

$$\text{営業収支比率} = \frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100$$

③ 経常的に行われる営業活動と財務活動を含めた企業活動の効率性を表し、高いほど良い。

$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{営業収益} + \text{営業外収益}}{\text{営業費用} + \text{営業外費用}} \times 100$$

④ 総資本に対する自己資本の割合であり、この割合が高いほど財政基盤は安定している。

$$\text{自己資本構成比率} = \frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} \times 100$$

⑤ 短期的(1年以内)な支払能力を表しており、高いほど財政基盤は安定している。

$$\text{流動比率} = \frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$



平成26年度経営計画達成状況（水道事業・鬼怒）

項目名	単位	H25	H26					備考	
		決算値	目標値 (※1) (a)	予算値 (※2)	実績値 (決算値) (b)	進捗率 (達成率) (b/a*100)	評価 (※3)		
サービス供給の分野									
安定供給	給水量	(千m <sup>3</sup> )	10,621	10,898	10,905	11,018	101%	A	
経済性発揮の分野									
収益的 收支	収益	(百万円)	978	991	1,026	1,019	103%	A	
	料収入	(百万円)	957	982	939	948	97%		
	その他収入	(百万円)	21	9	87	71	789%		東電からの損害賠償金等
	費用	(百万円)	738	803	943	822	102%	B	
	人件費	(百万円)	125	142	159	156	110%		
	減価償却費	(百万円)	246	252	270	263	104%		
	修繕費	(百万円)	83	83	94	94	113%		
	支払利息	(百万円)	35	32	22	22	69%		
	その他支出	(百万円)	249	294	398	287	98%		委託料、負担金等
経常損益	(百万円)	240	188	83	197	105%	A		
資本的 收支	収入	(百万円)	287	7	1	0	0%	A	
	企業債	(百万円)	287	0	0	0	0%		
	その他収入	(百万円)	0	7	1	0	0%		
	支出	(百万円)	630	1,104	587	393	36%		
	建設改良費	(百万円)	116	781	395	205	26%		設備更新等長期計画の見直し
	企業債償還金	(百万円)	514	187	188	188	101%		
	その他支出	(百万円)	0	136	4	0	0%		他会計への貸付けを見送り
差引	(百万円)	▲ 343	▲ 1,097	▲ 586	▲ 393	-			
借入金残高	企業債	(百万円)	718	537	530	530	99%	A	
	他会計	(百万円)	0	0	0	0	-		
	合計	(百万円)	718	537	530	530	99%		

※1 目標値：平成22年度に策定した「経営計画(平成23～27年度)」の平成26年度目標額

※2 予算値：平成26年度予算額

※3 評価：達成率(実績値÷目標値×100)をもとに、次のように区分する。

評価		給水量、収益など、目標を上回ったほうが良い項目	費用、借入金残高など、目標を下回ったほうが良い項目
A	計画を上回る	100% ≤ k	k ≤ 100%
B	概ね計画どおり	90% ≤ k < 100%	100% < k ≤ 105%
C	計画を下回る	k < 90%	105% < k

資本的収支は、その収入・支出の効果が次年度以降に及び、将来の損益に反映されるものであるため、単年度の評価にはなじまないことから、評価項目から除外する。

【経営比率(収益性)及び財務比率(安全性)] (鬼怒)

項目名	単位	H25	H26	(参考) H25年度 全国平均	備考
		実績値	実績値		
収益性	①経営資本営業利益率	(%)	-	1.4	1.3
	②営業収支比率	(%)	-	120.7	114.0
	③経常収支比率	(%)	-	124.0	109.4
安全性	④自己資本構成比率	(%)	-	75.1	70.0
	⑤流動比率	(%)	-	2,720.4	519.2

(注) 「(参考) H25年度全国平均」の欄に表示している数値は、総務省自治財政局編の「地方公営企業年鑑(第61集：平成25年度版)」を参照

① 経営に充てた資本により、どれだけ営業利益をあげたかを表し、高いほど収益性が高い。

$$\text{経営資本営業利益率} = \frac{\text{営業収益} - \text{営業費用}}{\text{経営資本}} \times 100$$

② 経営活動の成否を判断する営業活動の能率を表し、高いほど収益性が良い。

$$\text{営業収支比率} = \frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100$$

③ 経常的に行われる営業活動と財務活動を含めた企業活動の効率性を表し、高いほど良い。

$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{営業収益} + \text{営業外収益}}{\text{営業費用} + \text{営業外費用}} \times 100$$

④ 総資本に対する自己資本の割合であり、この割合が高いほど財政基盤は安定している。

$$\text{自己資本構成比率} = \frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} \times 100$$

⑤ 短期的(1年以内)な支払能力を表しており、高いほど財政基盤は安定している。

$$\text{流動比率} = \frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$



平成26年度経営計画達成状況（水道事業・北那須十鬼怒）

項目名	単位	H25	H26				備考			
		決算値	目標値 (※1) (a)	予算値 (※2)	実績値 (決算値) (b)	進捗率 (達成率) (b/a*100)		評価 (※3)		
サービス供給の分野										
安定供給	給水量	(千m <sup>3</sup> )	21,903	22,049	22,202	22,374	101%	A		
経済性発揮の分野										
収益的 收支	収益	(百万円)	1,904	1,910	1,955	1,988	104%	A	料金単価引下げ 東電の損害賠償金、長期前受金、受託事業収益	
	料金収入	(百万円)	1,879	1,893	1,839	1,852	98%			
	その他収入	(百万円)	25	17	116	136	800%			
	費用	(百万円)	1,468	1,587	1,825	1,594	100%	A		
	人件費	(百万円)	248	284	307	289	102%			
	減価償却費	(百万円)	459	535	531	510	95%			
	修繕費	(百万円)	178	177	190	190	107%			
	支払利息	(百万円)	65	62	49	48	77%			
	その他支出	(百万円)	518	529	748	557	105%			委託料、負担金等
	経常損益	(百万円)	436	323	130	394	122%	A		
資本的 收支	収入	(百万円)	369	7	1	0	0%	A		
	企業債	(百万円)	369	0	0	0	0%			
	その他収入	(百万円)	0	7	1	0	0%			
	支出	(百万円)	1,123	1,239	865	629	51%			
	建設改良費	(百万円)	451	839	591	363	43%			設備更新等長期計画の見直し
	企業債償還金	(百万円)	672	264	266	266	101%			
	その他支出	(百万円)	0	136	8	0	0%			他会計への貸付けを見送り
差引	(百万円)	▲ 754	▲ 1,232	▲ 864	▲ 629	-				
借入金残高	企業債	(百万円)	1,693	1,437	1,427	1,427	99%	A		
	他会計	(百万円)	0	0	0	0	-			
	合計	(百万円)	1,693	1,437	1,427	1,427	99%			

※1 目標値：平成22年度に策定した「経営計画(平成23～27年度)」の平成26年度目標額

※2 予算値：平成26年度予算額

※3 評価：達成率(実績値÷目標値×100)をもとに、次のように区分する。

評価		給水量、収益など、目標を上回ったほうが良い項目	費用、借入金残高など、目標を下回ったほうが良い項目
A	計画を上回る	100% ≤ k	k ≤ 100%
B	概ね計画どおり	90% ≤ k < 100%	100% < k ≤ 105%
C	計画を下回る	k < 90%	105% < k

資本的収支は、その収入・支出の効果が次年度以降に及び、将来の損益に反映されるものであるため、単年度の評価にはなじまないことから、評価項目から除外する。

【経営比率(収益性)及び財務比率(安全性)】(北那須+鬼怒)

項目名	単位	H25	H26	(参考) H25年度 全国平均	備考	
		実績値	実績値			
収益性	①経営資本営業利益率	(%)	2.3	1.7	1.3	
	②営業収支比率	(%)	134.1	121.0	114.0	
	③経常収支比率	(%)	129.7	124.7	109.4	
安全性	④自己資本構成比率	(%)	81.6	74.7	70.0	
	⑤流動比率	(%)	3,399.9	2,615.8	519.2	

(注) 「(参考) H25年度全国平均」の欄に表示している数値は、総務省自治財政局編の「地方公営企業年鑑(第61集：平成25年度版)」を参照

① 経営に充てた資本により、どれだけ営業利益をあげたかを表し、高いほど収益性が高い。

$$\text{経営資本営業利益率} = \frac{\text{営業収益} - \text{営業費用}}{\text{経営資本}} \times 100$$

② 経営活動の成否を判断する営業活動の能率を表し、高いほど収益性が良い。

$$\text{営業収支比率} = \frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100$$

③ 経常的に行われる営業活動と財務活動を含めた企業活動の効率性を表し、高いほど良い。

$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{営業収益} + \text{営業外収益}}{\text{営業費用} + \text{営業外費用}} \times 100$$

④ 総資本に対する自己資本の割合であり、この割合が高いほど財政基盤は安定している。

$$\text{自己資本構成比率} = \frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} \times 100$$

⑤ 短期的(1年以内)な支払能力を表しており、高いほど財政基盤は安定している。

$$\text{流動比率} = \frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$$



平成26年度栃木県企業局経営計画進行管理・評価シート（水道事業）

1. 計画

実施計画	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	合計
給水量（千m3）目標	21,762	21,869	21,867	22,049	22,131	109,678
給水量（千m3）実績	21,247	21,931	21,903	22,374	-	87,455
進捗率（%）						80%
(1) 経営基盤の強化と水道料金の見直し ①経費の削減 ②水道料金の見直し	(鬼) 料金改定	(北・鬼) 料金改定に向け検討する。	・北那須水道料金改定に向けた検討、条例改正 ・鬼怒水道料金改定に向けた検討、条例改正	・北那須水道料金改定 ・鬼怒水道料金改定 ・鬼怒水道料金勉強会	鬼怒水道料金見直しの検討	
(2) 計画的な施設の更新及び耐震化	計画北那須	浄水場設備更新	浄水場設備更新	浄水場設備更新	浄水場設備更新	浄水場設備更新
	計画鬼怒	浄水場設備更新	浄水場設備更新	取水場設備更新	取水場設備更新	取水場設備更新
①計画的・効率的な改善の実施 ※主な工事のみ記載	北那須	中央監視制御設備更新工事(H23~24) 薬品注入設備更新工事(H23~24)		遠方監視制御設備等更新工事	埋設管路調査業務委託	ろ過池覆蓋化設置工事
	鬼怒	浄水場コントロールセンター盤更新等工事(H23~24) 薬品沈澱池詳細設計業務委託		浄水場高圧受変電設備更新工事(H25~H26)	取水場受変電設備等更新工事(H26~29) 3系薬品沈澱池築造事業工事(H26~28)	
②設備更新長期計画の見直し		計画見直し			計画見直し	
(3) 災害・事故対策の強化 ①水質事故対策 ②油流入事故再発防止対策		(鬼) 油分検出装置等実施設計業務委託	(鬼) 取水場排水施設実施設計業務委託	(鬼) 油分検出装置設置工事	(鬼) 取水場排水施設設置工事(H26)	水道事業等危機管理マニュアルの検討
(4) 太陽光発電施設の設置・高効率機器の導入 ①太陽光発電施設の設置 ②高効率機器の導入	(鬼) 取水場電気設備等更新設計業務委託	(北) 太陽光発電設備詳細設計業務委託	(北) 太陽光発電設備設置工事	(北) 水道施設小水力発電設備設置検討業務委託		
(5) 浄水発生土の有効活用の検討			一部有効利用	一部有効利用		
(6) 人材の育成・技術の継承 ○ 内部研修の実施・外部研修への派遣						
(7) 放射性物質対策 ①水道水の放射性物質検査 ②浄水発生土の保管					(北・鬼) フレキシブルコンテナバック詰替	
内部評価	B	A	A			
外部評価	B	A	A			

計画 : -----> 実績 : ----->

経営方針	内 容
経営基盤の強化	事務事業の効率化を進め、計画的に施設の修繕・更新等を実施するなど経営基盤の強化に努めます。
安心・快適な給水の確保	関係機関と連携し、水道原水の水質保全に努めるとともに、適切に浄水処理及び水質検査を実施し、安心・快適な給水の確保に努めます。
災害・事故対応の強化	関係機関との応急復旧体制を強化するなど、災害・事故対策の強化に努めるとともに、施設の耐震化を推進します。
環境・エネルギー対策の強化	環境負荷を軽減するため、太陽光発電などの再生可能エネルギーを導入促進します。また、浄水発生土の有効活用についても検討します。

2. 平成26年度の取組状況及び平成27年度の主な予定

項目	平成26年度取組状況	平成27年度の主な予定
(1) 経営基盤の強化と水道料金の見直し	<p>① 経費削減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→ H25年度工事で発生した廃材(ろ過砂)を天日乾燥床の敷き砂として再利用(約 2㎡)</li> </ul> <p>② 水道料金の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北那須及び鬼怒水道の料金改定 → H26. 4. 1施行</li> <li>・ 鬼怒水道料金勉強会の開催(年3回) → 県と受水事業体の相互理解と認識を図った。</li> </ul>	<p>① 経費削減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→ H25年度工事で発生した廃材(ろ過砂)を天日乾燥床の敷き砂として再利用</li> </ul> <p>② 水道料金の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成31年度の鬼怒水道料金の見直しに向けた検討</li> </ul>
(2) 計画的な施設の更新及び耐震化	<p>① 計画的・効率的な改修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新設備更新長期計画に基づく老朽設備の計画的な更新等                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 【鬼怒】浄水場高圧受変電設備更新工事(52,684千円)</li> <li>→ 【鬼怒】3系薬品沈澱池築造工事(90,558千円)</li> </ul> </li> <li>・ 管路の劣化診断を実施                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 【北那須】埋設管路調査業務委託(3,564千円)</li> </ul> </li> </ul>	<p>① 計画的・効率的な改善の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新設備更新長期計画に基づく老朽設備の計画的な更新等                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 【北那須】ろ過池覆蓋設置工事</li> <li>→ 【鬼怒】取水場受変電設備等更新工事</li> <li>→ 【鬼怒】3系薬品沈澱池築造工事</li> </ul> </li> </ul> <p>② 設備更新長期計画の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設備更新等長期計画策定検討会の開催(4回)(更新・修繕計画について検討)</li> </ul>
(3) 災害・事故対策の強化	<p>① 油流入事故再発防止対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 【鬼怒】取水場排水施設設置工事(20,850千円)</li> <li>・ 地域・流域住民に対する啓発用チラシの配布(年2回)</li> <li>・ 防災訓練実施(2回)</li> <li>・ 応急復旧体制等備検討会の開催(4回) → 災害・事故発生時のマニュアル等ソフト面を強化</li> </ul>	<p>① 危機管理マニュアルの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水道事業等危機管理マニュアル策定検討会の開催(4回)(各種災害マニュアルの見直しについて検討)</li> </ul> <p>② 油流入事故再発防止対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域・流域住民に対する啓発用チラシの配布(年2回)</li> <li>・ JAしおや広報誌(7月号)に啓発用資料掲載</li> <li>・ 防災訓練実施(2回)</li> </ul>
(4) 太陽光発電施設の設置・高効率機器の導入	<p>① 高効率機器の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 【鬼怒】浄水場高圧受変電設備更新工事(52,684千円)(再掲)</li> <li>・ 【鬼怒】取水場受変電設備等更新工事(H26.12~H30.2)</li> <li>・ 【北那須】水道施設小水力発電設備設置検討業務委託(2,624千円) → 水道施設小水力発電の可能性を検討</li> </ul>	<p>② 高効率機器の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 【鬼怒】浄水場高圧受変電設備更新工事(H25.9~H27.2)(再掲)</li> <li>・ 【鬼怒】取水場受変電設備等更新工事(H26.12~H30.2)(再掲)</li> </ul>
(5) 浄水発生土の有効活用の検討	<p>① 浄水発生土の有効活用の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 再生利用ができる浄水発生土は有効利用 → 有効利用量 452t</li> <li>・ 最終処分可能な浄水発生土は、昨年度に引続き民間最終処分場にて処理 → 県外の民間中間処理施設に運搬、処理後最終処分場にて処分 → 【北那須・鬼怒】浄水発生土処理業務委託(運搬・処理)(H26.8~H26.10)</li> </ul>	<p>① 浄水発生土の有効活用の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 再生利用ができる浄水発生土は有効利用</li> <li>・ 最終処分可能な浄水発生土は、民間処分場にて処理</li> </ul>
(6) 人材の育成・技術の継承	<p>① 人材の育成・技術の継承</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内部研修への派遣 → 水道技術者研修会等内部研修を実施(H27.2)</li> <li>・ 外部研修への派遣 → 日本水道協会主催の技術継承研修等の研修会に参加(35回、64人)</li> </ul>	<p>① 人材の育成・技術の継承</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内部研修への派遣 → 水道技術者研修会等内部研修を実施</li> <li>・ 外部研修への派遣 → 日本水道協会主催の技術継承研修等の研究会に参加(27回、54人)</li> </ul>
(7) 放射性物質対策	<p>① 放射能対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水道水の放射能検査                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 福島第一原発事故への対応として、水道水の放射能測定を実施(週1回)</li> </ul> </li> <li>・ 浄水発生土の保管                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 平成24年1月に施行された「放射性物質汚染対処特別措置法」に基づく適切な対応の実施</li> <li>→ 劣化に対応するためフレキシブルコンテナバッグ詰替し、遮水シートで被覆</li> </ul> </li> <li>・ 適切な保管のため、浄水発生土の搬出時に放射能測定実施</li> <li>・ 浄水場の敷地境界における空間放射線量の測定を実施(週1回、H26.5~月1回)</li> </ul>	<p>① 水道水の放射能検査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水道水の放射能測定を実施(週1回)</li> <li>・ 浄水発生土の保管                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 「放射性物質汚染対処特別措置法」に基づく適切な対応</li> </ul> </li> <li>・ 浄水発生土の搬出時に放射能測定実施</li> <li>・ 浄水場の敷地境界における空間放射線量の測定を実施(月1回)</li> </ul>

【評価】

内部評価(担当課・経営企画会議)		外部評価(経営評価委員会)	
安全かつ安定的に水道水を供給するため、設備更新長期計画に基づき計画的に設備の更新を行っている。また、油流入事故や災害に対処するための設備強化を図っている。放射性物質の対応については、水道水を定期的に測定して安全の確認をしている。また、浄水発生土についても搬出時に測定して適切な保管を行っている。	A	北那須、鬼怒水道とも、目標値に対し、料金収入は使用料金の引下げにより、下回ったが、給水量は上回った。また、油流入事故や災害に対応するための設備強化など、計画どおりに実施されている。引き続き、放射性物質対策については、適切に対応された。	A

【評価】 A: 計画を上回る B: 概ね計画どおり C: 計画を下回る